

年頭の辞

新しい年のはじめにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年も一昨年に引き続き、私たちの生活は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に対応したものとなりました。ここに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々、ライフラインの維持に努めておられる方々に深く敬意と感謝を表します。

この新型コロナウイルス感染症は、私たち一人一人の生活に大きな影響を与えました。それは、同時に社会の問題も浮き彫りにしています。仏教を説かれたお釈迦様は、自分自身の考えにとらわれ、真実をみることのできない私たちの姿を指摘されています。私たちが自分の思い通りに行動したら、社会の中に対立や分断を生むこととなります。

親鸞聖人は、ご和讃に「浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし 虚仮不実のわが身に 清浄の心もさらになし」とうたわれました。阿弥陀さまのおはたらきによって知らされる私たちの本当の姿は、縁起や無常、無我というこの世界の真実をそのままに受け入れることができずに悩み苦しむ姿です。親鸞聖人は、そのような私たちに阿弥陀さまのおはたらきが届いていると明らかにされました。いまだに新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない世界ですが、阿弥陀さまのおはたらきを聞き、それを依りどころとして日々の生活を過ごしてまいりましょう。

現在の厳しい状況の中でさまざまな試みを重ねながら、今までとは違った方法で浄土真宗のみ教を広く社会へ伝える取り組みもなされていると聞き、たいへん心強く思います。これからもお寺が皆さまの心の支えとなりますよう、お寺の活動にご理解とご協力を頂きますことをお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2022年1月1日

浄土真宗本願寺派

門主 大谷